

二輪車における前部デザインの統一，継続，進化による アイデンティティ構築

Defining the Identities of Motorcycle Model Lineages by Converging, Inheriting
and Enhancing the Vehicle Frontal Styling

鈴木 祥高*

Yoshitaka SUZUKI

三木 真洋*

Masahiro MIKI

要 旨

Honda は二輪車において、各時代の最新技術を投入し、常に新しい価値観を創造するためにデザインも大きく進化させてきた。しかし、変化する市場の要求に応えるために、一部の機種において、これまで継承されてきた車名シリーズが持つイメージとは異なる前部デザインが適用された。これにより継承されてきたアイデンティティが弱まり、お客様の期待にそぐわないという状況が生じた。その解決のために、同一車名シリーズを象徴する前部デザイン形状を定義し、技術進化と共に継続することとした。そして「統一，継続，進化」という三つのキーワードを定めることで、今後の二輪車前部デザインにおけるガイドラインを確立した。

ABSTRACT

In the development of motorcycles, Honda has been implementing the latest technologies. At the same time, the exterior designs have been kept evolving constantly to create new values. Meanwhile, to respond to the changing demands from the markets, a different vehicle front-design was sometimes adopted even though it was not fitting to the symbolic representation inherited through the specific model for generations. Such designing practices eventually diluted the succeeded identity resulting in failing to live up to customer expectations. To solve this, the issue of design identity was repeatedly discussed. The discussion was concluded that it is important to define a key feature of a vehicle front design that symbolizes a series of models having the same product name. Moreover, that design definition should be inherited while incorporating advanced technologies in time. To realize that, we delineated the direction by three key words: “convergence, inheritance and enhancement” as the guidelines for the design of a vehicle front. These guidelines were practically implemented and contributed to establishing a valuable principle of exterior design for our motorcycles.

1. まえがき

Honda は創立以来、先進、独創の技術をもって世界各地のさまざまなニーズに応える製品を生み出しお客様へ提供してきた。二輪車においても、モデルチェンジごとに各時代の最新技術を投入し、常に新しい価値観を創造するためにデザインを大きく進化させた。そうすることでCB、VFRなどの車名シリーズの歴史を築いてきた。そのような中、個々のシリーズが持つコンセプトを表現するため、「VFRといえばこの顔である」とお客様と共有できるような前部デザインを心がけていた。一方、二輪車ビジネスの

世界展開が拡大することで、同一車種でありながら先進国と進出国のユーザを同時にターゲットとしたモデルも増えつつある。しかし、異なる市場においては同一車種であっても異なるデザインが求められる。こうした市場の要求に応えるために、一部の機種において、車名シリーズと異なるイメージを持つ前部デザインが適用された。これによりシリーズごとに継承されてきたアイデンティティが弱まり、販売地域によってはお客様の期待にそぐわないという状況が生じた。この状況の解決のため、CB、VFRなどのデザインの歴史と現状を検証し、アイデンティティとして継続すべき要素について議論を重ねた。その結果として、同

*二輪 R&D センター

一の車名シリーズを象徴する前部デザイン形状を定義した上で統一し、技術進化と共に数世代にわたり継続することが重要であるという結論に至った。この「統一、継続、進化」という三つのキーワードを前部デザイン決定のためのガイドラインにすることによって、お客様の期待に応えられる前部デザインを長期的に提供できると考えた。この考えに基づき、車名シリーズごとのヘッドライト周りの統一感を表現するための基本形状を定義した。一方、長期的にデザインが陳腐化するのを防ぐために、最新技術の導入も考慮に入れた。新技術の例として、デザイン表現に利用可能となってきた Light Emitting Diode (LED) による照光技術がある。これをヘッドライトやラインの表現に用いることにより前部デザインの自由度が増した。ガイドラインの実施例として 2010 年モデル VFR1200F の X 字形状を有する特徴を継承した 2014 年モデル VFR800F がある。このモデルにおいて LED 照光技術が活用された。以下に、ガイドラインの内容と実施例の詳細について述べる。

2. ガイドラインの策定

車名シリーズと異なるイメージを持つ前部デザインが適用されたため、継続されてきたアイデンティティが弱まった。この状況の解決のため、デザインの歴史と現状を検証した上で、「統一、継続、進化」をキーワードとしたガイドラインを作成した。それぞれのキーワードの考え方について述べる。

2.1. 統一

顧客調査結果(自社調べ)によって、お客様がバイクを購入する際に前部デザインを重視することが分かっていた。丸山らが述べているように⁽¹⁾、人間は顔に似た図形に対して高い感受性を持つことが確認されている。このため、グループごとに統一された前部デザインを適用することで、そのグループに属したバイクは共通した性格や特徴を持つ

ているというイメージをお客様に想起させることが可能になる。これらを参考に、Fig. 1 に示すようにシリーズごとのヘッドライト周りの統一感を表現するための基本形状を定義した。それぞれの形状は、新しく提案されたコンセプトモデルや、長期にわたりアイデンティティとして認知された形状に含まれる要素を基本としている。具体的には、VFR シリーズには 2008 年発表のコンセプトモデルをベースにした X 字形状、Goldwing を頂点とする GL シリーズには大陸の雄大さを表現する水平基調のウイングライン、CB シリーズには伝統を継承するトラディショナルな形状、CBR シリーズには鋭い走りをイメージさせる薄くコンパクトなシャローアイとした。統一の考え方はあくまでも基本形状の提示であり、デザイナーの創造性を規制するためのものではない。各シリーズのアイデンティティを理解した上で、シリーズとして統一感を表現できる範囲で柔軟な対応を可能とするものである。

2.2. 継続

ブランドイメージ同様、車名のイメージを定着させるために、統一されたデザインを継続することとした。各シリーズの前部デザインは数世代にわたり継続されることで Honda とお客様との間でアイデンティティとして共有され定着してきた。この認識を確認するために、過去の機種を担当したデザイナーに聞き取りをしたところ少なからず前モデルが持つ印象や基本形状を前部デザインに取り入れることを意識していた、とのコメントが得られた。このことから Honda は長い歴史を持つ車名シリーズである CB や VFR などにおいてその車名が持つ性格を表現する顔づくりを、継続性を意識しながら実施してきたといえる。一例として、ブランドイメージが定着しているといわれる欧州プレミアム四輪メーカーではヘッドライトを含む前部デザインのアイデンティティを長期にわたり大きく変化させていない。このことは、メーカー自身が成熟した社会において何をすべきかを理解し、また顧客もその理念に共感している

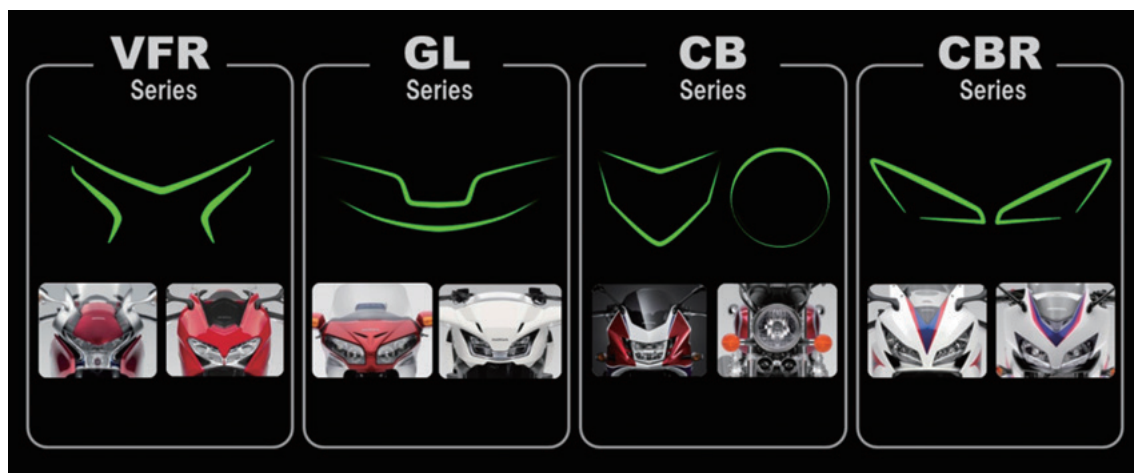


Fig. 1 Styling design motifs

ことを意味している。Hondaは、デザインを大きく変化させることでお客様の嗜好の変化に応じてきた時代を経て、成熟した社会やお客様のために、長い歴史を持つ車種の前部デザインを継続していくことへの努力も求められるようになった。

2.3. 進化

前部デザインを継続することは、長期的には外観が陳腐化するという面も持つ。それを防ぐために、統一されたシリーズ性を感じさせながら新しさを表現しなければならない。そのために、最新の技術を取り入れる必要がある。以下に技術例を示す。

灯火器では常に新しい技術が開発され、進化を表現するためにさまざまなものが利用可能であった。中でも近年の車両灯体技術としては、小型、低消費電力、長寿命という特徴などから、従来のフィラメントバルブに替わりLEDの普及が進んできた。このLEDが2014年モデルの進化に大きく関連しているため、以下に技術例として述べる。LEDの車両用灯火としての利用は尾灯、制動灯などで先行しており、当初は点光源を単体あるいは複数配置する手法が主流だった(Fig. 2)。この手法は、前述の特徴に加え光源そのものを見せることによってLEDの新規性を訴求するものであった。白色LEDが実用化されると、前部デザインにもLEDが採用された。2007年モデルのCBR600RRでは国内メーカー初となる、LEDによるフロントポジションライトを装備し、前部デザインのコンパクト化に寄与している(Fig. 3)。また2008年モデルのCBR1000RRでは左右バックミラーに小型のフロントポジションライトを装備することでヘッドライトとは独立した位置に光源を配置し、被視認性の向上に寄与している(Fig. 4)。この時点では、機能面を重視したLED利用であった。

その後、光線解析技術の向上により、点発光から、導光によるライン状発光、面状発光などと方式が多様化し、デザイン表現に利用可能となってきた(Fig. 5)。また白色LEDの進化によりヘッドライトの光源として使用されるようになったことで発光部の小型化が進み、前部デザインの自由度が増した。これらのLED技術進化により、従来からおこなわれてきた部品形状のみによる表現手法から、任意の発光形状も使ったデザイン表現が可能となった。前部

デザインで独自のアイデンティティを表現する手段は、これらの技術進化によって選択肢が広がり、統一、継続、進化の試みを大きく前進させる力となった(Fig. 6)。



Fig. 3 Front position light (at center) in the CBR600RR, 2007 year model



Fig. 4 Front position lights (at rear view mirror) in the CBR1000RR, 2008 year model

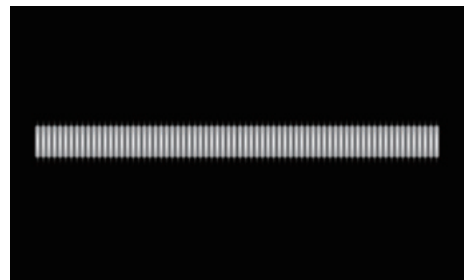


Fig. 5 Light guiding panel

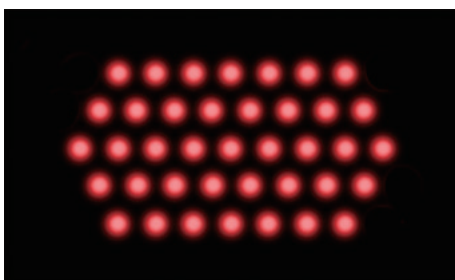


Fig. 2 Dotted arrangement of LEDs in tail light



Fig. 6 Application of light guiding panel in the PCX, 2014 year model

3. ガイドラインの実施例:VFR シリーズ (VFR1200F, VFR800F)

VFR は Honda 二輪車における重要な車名シリーズの一つである。1986 年の初代 VFR750F 投入以降、常にユーザの支持を受け続けてきた歴代 VFR は、スポーツツアラーカテゴリにおいて唯一 V 型 4 気筒エンジンを採用してきた。また、その時々 of Honda の先端技術を投入することにより、高性能かつ高機能というユニークなハードパッケージと大人のための洗練されたスタイリングの組合せによるコンセプトを具現化し続けてきた⁽²⁾。2008 年のイタリアミラノにおける EICMA にて発信した新世代の VFR のコンセプトモデル (Fig. 7) は X 字形状を有したフロント周りデザインを特徴の一つとしており、2010 年モデル VFR1200F の量産モデル (Fig. 8) にもそのイメージは再現された。この時点ではヘッドライトはフィラメントバルブを使用しており、X 字のイメージはライトレンズ外形と周辺のダクト形状の複合で表現する手法であった。

2014 モデル VFR800F における前部デザインの検討の際は、それまでの独立二眼のヘッドライトから VFR1200F 同様の X 字形状とすることで VFR シリーズとしての「統一感」を表現した (Fig. 9)。また、歴代の VFR シリーズの

中でも多くの支持を得たモデルの印象を引用することで、シリーズとしての「継続性」も表現し、「進化」を表現する観点から LED ヘッドライトを採用した。VFR シリーズとしてのアイデンティティの表現には X 字形状を LED によるライン状発光によって強調する手法を用いている。具体的にはヘッドライトユニットにロービームの一部として組み込まれた導光体の発光形状で表現されている (Fig. 10)。すなわち、光の形状が独自性を表す上で重要な役割を果たすことになった。これによって Honda 二輪車の個性表現が進化したといえる。



Fig. 9 Image representation using LED light guiding panel in the VFR800F, 2014 year model



Fig. 7 Concept sketch of the VFR, 2008



Fig. 8 X image representation in the VFR1200F, 2010 year model



Fig. 10 Applied light guiding panel (shown in green color)

4. 結論

車名イメージの定着のため、車名シリーズごとの前部基本形状の統一、基本形状の数世代にわたる継続、陳腐化を防ぐための技術進化を、前部デザインを決定する上でのガイドラインとした。

VFR800F において、ガイドラインに沿った前部デザインを採用し、同モデルは 2014 年に発売された。

参考文献

- (1) 丸山一幸, 堤陽次郎, 村田裕: 二輪車の発見率を向上させる灯火器配置「FACE」デザインの研究, Honda R&D Technical Review, Vol.21, No.2, p.130-135
- (2) 岸敏秋: VFR1200F のスタイリングデザイン, Honda R&D Technical Review, Vol.22, No.2, p.14-19

■ 著 者 ■



鈴木 祥高



三木 真洋